

令和4年3月14日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立広野小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

外国語活動担当者を中心に、組織的に外国語活動に取り組む。また各学年の学習内容を考慮し、市で統一した外国語活動の年間カリキュラムモデル例をもとに、系統的な外国語活動となるよう学習カリキュラム等を立案する。各校の外国語活動担当者が組織する外国語活動研修部会は、研究授業や実践事例に関する協議などを通して、各校の取組を交流し市内全体で交流するとともに、検証しながらよりよいものとする取組を進めている。

評価については、学校関係者評価の中に外国語活動に関する設問を設定し、保護者や教職員からの評価をもとに年度ごとに検証するとともに、各学校における児童・生徒の外国語活動の振り返り結果から授業改善に取り組む。

イ 指導計画及び授業の内容

第1・2学年では英語にふれながら表現を楽しむことをめざす。ALTや友達と簡単な英語で気持ちの良いあいさつをしたり、ゲームや歌を歌うなどの活動において、簡単な英単語にふれ、「話す」「聞く」ことから単語を習得したりする。また、特別活動やモジュール学習等を活用して、色や数を英語で表現したり、ハロウィーンやクリスマスなどの季節の行事で用いられる英語の表現を学んだりする。

特に低学年という発達段階を考慮し、授業だけでなく、休み時間や給食の時間、清

掃時間などにALTとともに時間を過ごし、少しでも英語を身近に感じることができるよう工夫する。

(4) 情報提供の状況

保護者や地域の方々に参加いただく学校行事において、自校担当のALTを紹介する。また、外国語活動の様子をホームページで紹介する。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成 28 年 4 月 1 日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和 2 年 4 月 1 日
- ・ 取組の終期 : 今後も継続した取組を予定

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

「外国語活動」を通して、運用できる英語力とコミュニケーション能力の育成をめざし、国際社会に生きる日本人としての自覚の芽を育む。

(2) 実施の効果

小学校という発達段階は、新しい言語を急速に吸収することができる年代である。そうした年代において、歌やゲーム等で英語を発話したり、聞いたりすることによって、自然な発音やアクセントの練習を早い段階から行うことができた。また、英語でのあいさつや簡単な表現にチャレンジするために、「話す」「聞く」体験により簡単な単語を身に付けることで、英語への抵抗感を小さくすることができた。さらに、ALTのネイティブな英語に触れることにより、英語特有の発音を聞き取る機会を早い段階から設定することができた。担任もALTと協力して外国語活動を進めることで、教材の効果的な使用方法や、歌やゲームの指導方法、キーワードの使い方を工夫

するなど、外国語活動の指導力が高まった。

4. 課題の改善のための取組の方向性

三木市全体の小学校で特別な教育課程を編成しているため、同一歩調で英語活用能力の向上を図る必要がある。現在、外国語活動研修部会を中心に授業プログラムやカリキュラムの検討を行っているが、先進校視察や校外の研修等に積極的に教職員を参加させ、コーディネーターとしての役割を担わせるなど、より多くの教職員が参画し、三木市独自のよりよいものにしていく取組を進めたい。

授業プログラムやカリキュラムなどの指導内容、指導方法と共に、指導と評価の一体化を目指し、評価方法についても研究する必要がある。本教育課程の目標が、英語にふれながら表現を楽しむことにあることから、学習に取り組もうとする態度を評価する場面が多くなる。その考え方や具体的に見取る方法などを研究し、第3学年以上の外国語活動、外国語に繋がる評価となるよう取り組んでいきたい。こうした授業プログラムやカリキュラムを実践する教職員の指導力向上、評価に関する研究などをテーマとし、教職員研修の充実を図りたい。